

## I 神に言い返すあなたは、何者ですか。造り主の絶対的な権利

1. 「すると、あなたは私にこう言うでしょう。『それではなぜ、神はなおも人を責められるのですか。だれが神の意図に逆らえるのですか』：19。※証し。この前節の「神は人をみこころのままにあわれみ、またみこころのままに頑なにされるのです」というみことばは、偉大な神と人間が対等と考えるならば、次の疑問をぶつきたくなる→「それでは（神が人をみこころのままに支配されるなら）なぜ、神はなおも人を責められるのですか。だれが神の意図に逆らえるのでしょうか」と。もし神が人間の意志までも自由に支配しておられるのなら、たとえ人が神に逆らっても人間には責任はないことになるのではないか？神が人を責められるのは矛盾のように思える。人は誰も神の意図、御計画、御支配に逆らって何かを行うことはできないことになる。これは、「神の絶対性」と「人間の責任」に関わる問題であり、今日まで繰り返し論じられてきた問題。神の絶対主権、絶対支配が語られる時に、人間には一切の責任がないと思われてしまう。創造者の偉大な神と神に造られた人間を同等のものとして論ずること自体が誤りである。

2. このように正しく解釈するのが難しい箇所を理解する助けが与えられている。それは、聖霊なる神が導かれた66巻の聖書全体から理解することです。①「神は人をご自身のかたち（機械やロボットではなく、自由意志と人格を持つ神のご性質に似せて）として創造された。神のかたち（自由意志と人格を持つ存在。善悪を判断できる存在。神と交わる存在）として人を創造し、男と女（アダムとエバに、自由意志が与えられ、神に従うことも逆らうこともできる人間に造られた。神はロボットのようにただ機械的に従う人間との交わりではなく、自由意志、判断力を用いて神に喜んで従う人格的な交わりを求めておられた）に彼らを創造された」（創世記1：27）。②「だれでも誘惑されているとき、神に誘惑されていると言ってははいけません。神は悪に誘惑されることのない方であり、ご自分でだれかを誘惑することもあります」（ヤコブ1：13）。神はすべてを支配しておられるが、人を悪に誘惑する方では決してない。

3. 私たちは、偉大な創造主の神の前にへりくだり、私たちには神と対等の論戦者になる資格はないことを認めたい。※ヨブ記からの深い教え。私たちは、①神がすべてを支配されていることと②自由意志を与えられている私たちが、誘惑に負け罪を犯す時に、神に責任転嫁をするのではなく、罪を犯した自分に責任があることを認め、神に罪を告白し赦しときよめをいただきたい（Iヨハネ1：9）。

II 私たちを造られた偉大な神と神に造っていただいた私たちの立場の違いを自覚する大切さ

1. 「人よ。神に言い返すあなたは、いったい何者ですか。造られた者が造った者に『どうして私をこのように造ったのか』と言えるでしょうか」：20。パウロは、御聖霊に導かれて、「神の絶対的な支配」と「人間の責任」について、神が人間に与えられた理性が満足するような語り方をしません。むしろそのような問いをする人間の立場そのものに光を当てます。「人よ。神に言い返すあなたは、いったい何者ですか」。神に言い逆らっているあなたは、そもそも、いったい何者ですか。神に言い返すこと自体が、すでに神の被造物としての「へりくだるべき正しい自己認識」において誤っているのではないですか。「造られた者（命をいただいた者）が造った者（命の造り主の神）に『どうして私をこのように造ったのか』と言えるでしょうか。私たちは、造り主なる偉大な神に、あなたは「どうして私をこのように造ったのか」と言う権利、資格はありません。※命が与えられているだけで、「ありがたいです」と神に感謝したい。

2. その理由が、旧約の預言者がよく使った陶器を作る者と器の関係が語られる。「陶器師は同じ土の塊から、あるものは尊いことに用いる器に、別のものは普通の器に作る権利を持っていないのでしょうか」：21（イザヤ29：16，45：9，10，エレミヤ18：6）。ここの強調点は、創造主である神の主権、権利の絶対性です。「権利を持っていないのでしょうか」ということばが強く響いている。※私たちが粘土で何かを作る時の立場。私たち人間にも、粘土で何かを作る権利、あるものをつぶし、別のものを作る権利があります。※もし粘土が文句を言ったら？「陶器師は同じかたまりから、あるものは尊いことに用いる器に、別のものは普通の器に作る権利を持っていないのでしょうか」：21。陶器師（造り主なる神）には、同じかたまりから、あるものは尊いことに用いる器（私たち）に、別のものは普通の器（私たち）に作る自由な権利が与えられています。それに対して、作られた器（私たち）が文句を言うことはできません。それは造り主の神と造られる側の人間との関係においても、まったく同様です。私たちは、私たちが愛をもって造られた偉大な神に、命と体の機能、日ごとの糧、水、救いが与えられている恵みを日々驚き感謝しましょう。偉大な造り主の神に文句を言う資格は被造物である私達には全くないのです。

### Ⅲ 滅ぼされるはずの怒りの器（私たち）をあわれみの器（私たち）とされた大きな恵み

1. 「それでいて、もし神が、御怒り（義なる神は私たち罪人を愛し救おうとされるが、私たちの罪、不正に対しては正しく怒られる愛と義のお方。国民にも政治家にも公正な方）を示してご自分の力を知らせようと望んでおられたのに、滅ぼされるはずの怒りの器（私たち）を、豊かな寛容をもって耐え忍ばれたとすれば、どうですか」：22。このみことばは哀歌のみことばに通じます→「私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ」（3：22）。エペソのみことばにも通じます→「私たちがみな、不従順の子らの中であって、かつては自分の肉（生まれながらの罪の性質）の欲のままに生き、肉と心の望むことを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。しかし、あわれみ豊かな神は、私たちが愛してくださったその大きな愛のゆえに…私たちが、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです」（2：3-5）。罪深い私たちに対して神は、「豊かな寛容をもって耐え忍び」救われたのです。そして、今も、まだ自分の罪を認めず主を信じようとしない人々にも「豊かな寛容をもって耐え忍び」神に立ち返り救われるのを待っておられるのです。「約束（主の再臨）したことを遅らせているのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです」（Ⅱペテロ3：9）。

2. 「しかもそれが、栄光のためにあらかじめ備えられたあわれみの器に対して、ご自分の豊かな栄光を知らせるためであったとすれば、どうですか」：23。神は、私たち人間を「怒りの器」から「あわれみの器」に変えてくださる。「あらかじめ備えられた」は、神が前もってあわれみを準備しておられるという意味。「あわれみの器」とは、キリストを信じ神と和解し、神とともに生きるようになったキリスト者のこと。それは、神によってあらかじめ備えられた民であるが、「怒りの器」も真実な悔い改めと主への信仰により「あわれみの器」とされる。主を信じる「あわれみの器」に対して、神は、ご自身の豊かな栄光（神の素晴らしいご性質、祝福）を知らされる。滅んで当然の私たちへのあわれみ、救いを感謝します。

3. 「このあわれみの器として、神は私たちを、ユダヤ人の中からだけでなく、異邦人の中からも召して（救って）くださったのです」：24。ユダヤ人も異邦人も、「怒りの器」から救われて「あわれみの器」とされる条件は主の十字架で同じになりました＝自分の罪を認め主を信じることです。「二つのもの（ユダヤ人と異邦人）を一つのからだ（主の体である教会）として、十字架によって神と和解させ、敵意（差別）を十字架によって滅ぼされました」エペソ2：16。神のあわれみを感謝し賛美します！418番